



1  
JANUARY  
2012

# 迎春



こ が

# 古河

広  
報

No.76

● 市長新年のあいさつ	2
今月の特集	
● 総合的文化施設フォーラム	4
● 地域交流センターが開館	8
● 子育て支援	10
● 学校づくりチャレンジ	12
● 火災の多い季節	13
● わたらせ水辺の楽校	14
表彰	
● 秋の叙勲表彰等	15

# 謹んで新年のごあいさつを申し上げます



市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

日頃から市政へのご支援ご協力に対しまして、深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、3月11日に発生しま

した東日本大震災は、国難ともいふべき未曾有の大震災として忘れることができません。被災地では、多くの尊い命が失われ、今なお放射能汚染に対する除染やがれきの処分など、困難な問題が山積する中で、厳し

い越冬を余儀なくされております。あらためて被災されました皆さまに、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

この大震災では、古河市においても震度5強を観測し、民家や公共施設が多くの被害を受けました。そのため、私は災害復旧や被災者支援が最優先の課題であると考え、予定していた事業の中止や見直しに着手し、それらの財源を基に、震災発生後、数度にわたる予算措置を講じ、被災者支援などの災害関連事業を実施いたしました。今後も引き続き、市民の皆さまが安心安全に暮らせるまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

次に、明るい話題としましては、昨年10



月17日に古河名崎工業団地において、日野自動車株式会社古河工場の起工式が盛大に挙行されました。いよいよ今春から日野自動車の生産工場が稼働いたします。日野自動車の本社工場移転により、経済効果を生み出し、併せて地元雇用の促進や関連企業の誘致、地元製品の活用など、最大の波及効果が創出されることを期待しております。

平成23年は合併6年目を迎え、来るべき10周年へ向けて新たな1歩を踏み出す1年でもありました。1市2町の合併を推進し、新古河市の市長に就任した私の使命は、市民の皆さまが合併して本当によかったと実感できるまちを創ることだと考えております。

そのような視点でさまざまな施策に取り組ん

でまいりましたが、大きなプロジェクト事業が本年より具体化されてまいります。2月には、古河駅西口地区の地域交流の拠点となる古河市地域交流センター「はなももプラザ」が開館いたします。また春には、日野自動車の新工場が一部稼働、平成25年夏には「道の駅」がオープンいたします。そして新古河市のシンボルとなるような総合的文化施設の整備も設計段階に入りました。風格と希望に満ちた“いきいき古河”という都市像の実現へ向けて、古河市は着実に歩みを進めております。

市民の皆さまにとりましても、本年が健康で幸せに満ちた明るい年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

古河市長 白戸 仲久



# 古河市総合的文化施設フォーラム開催

## 「地域における文化施設の役割～市民と文化芸術について～」

11月23日、とねミドリ館において、古河市総合的文化施設基本計画について、市民の方々の理解を深め、そして市の文化振興を高めることを目的とした古河市総合的文化施設フォーラムを開催しました。

フォーラムは、オープニングセレモニーとして総和中吹奏楽部による演奏、基本計画の報告、俳優で古河大使の渡辺徹氏の基調講演、そして、6人のパネリストによるパネルディスカッションを行い、来場した方々は真剣に聞き入っていました。

主催者あいさつ、基調講演、パネルディスカッションの内容は次のとおりです。

### 「魅力ある都市づくりには 新たな拠点となる総合的文化施設が必要」

主催者あいさつ 白戸仲久

合併を契機として、市民の文化芸術活動も年々盛んになり、その活動範囲も市内全域に広がりを見せております。しかし、古河市公会堂が老朽化により閉鎖されるなど、市民の皆さまには用途にそぐわない体育館や社会教育施設を利用したり、また、近隣自治体の文化施設を利用する状況となっております。これまでに旧市町が築き上げてきた歴史や伝統を継承しつつ、北関東を代表する中核的な都市を担うべく、新たな古河文化を築き上げていくためにも、新たな拠点、また文化の核となる施設が必要であると考えております。

総合的文化施設の整備につきましては、合併前の1市2町で策定しました新市建設計画に位置付けられていることから、合併特例債という大変有利な財源を活用できるものであり、元利償還の7割を国が負担することから、古河市は通常の約3分の1の負担で事業を行うことが可能となります。

また、平成の大合併では都市間競争にいかんに残っていき、地域の発展や市民生活の向上の基礎となる都市基盤などの整備を行い、他の自治体には無い「魅力ある都市を形成していくか」が重要であり、合併後の市総合計画においても、施設の整備を明確に位置付けてまいりました。

こうした背景から事業を推進してまいりましたが、去る11月7日には古河市総合的文化施設基本計画策定委員会からの計画に関する提言をいただき、市としての基本計画を策定しました。

この計画では、鑑賞・発表などの機能を有した文化ホール施設に加えて、図書館などを含めた複合的な機能を兼ね備えた施設を整備することとし

ております。また、建設地につきましては、古河駅東部土地区画整理事業地区内の5.8ヘクタールを予定地とさせていただきました。当地区では、住宅や民間商業施設等による新市街地として、一体的な拠点整備を計画していることから、面的な広がりやさまざまな波及効果が生まれ、文化や産業などのさらなる発展が期待でき、ひいては、古河市のまちづくりを先導する地域となるものであります。

総合的文化施設が、将来の古河市を担う子どもたちから、お年寄りまで幅広く多くの人たちにご利用いただき、市の新たなシンボルとして親しまれるような施設を目指してまいります。そして、これまで以上に市民の交流が生まれ、にぎわい、この拠点を中心として、市の魅力の向上につながるものと確信しております。



▲オープニングセレモニーでは総和中吹奏楽部の生徒が渡辺徹さんの大ヒット曲「約束」など素晴らしい演奏を披露

## ◆基調講演 渡辺徹氏(俳優・古河大使) 「地域文化施設に求められるものとは ～市民と文化芸術～」(要約)



### 古河の文化とともに育ち 原点は夢の場所「古河市公会堂」

劇団に身を置く者として、ご縁があってこういう場を頂戴しました。その経験、体験からお話をさせていただこうと思っています。

私は古河で育った人間です。古河の文化とともに育ってきました。小学生のときは音楽クラブ、中学生ではブラスバンド部、成長する過程において外せないのが「古河市公会堂」でした。思えば、幼稚園のときから「古河市公会堂」で発表会をやり、そしてブラスバンドの演奏、高校時代にはバンドの演奏やアマチュア劇団の公演もやりました。時には、芸能人など有名な人が来たときは、家族と一緒にコンサートなど見に行きました。「古河市公会堂」は、普段の生活から離れられる場でした。演じたり、演奏したりする側としても、また、観る側としても興奮する、緊張する、ちょっとお祭りのな、そして、ワクワク、ドキドキする。そういった「夢の場所」でした。そういったことから「古河市公会堂」は私の記憶の中から消すことのできない場所です。文学座に入った今日があるのは「古河市公会堂」があったからだ、とあらためて思います。

### 劇場はエネルギーのキャッチボールの場

テレビや映画もやらせていただいています、今こうやって来場された皆さまと接している、お会いしています。生で皆さまにエネルギーを届けられている。そして、皆さまからもエネルギーをいただいています。テレビや映画では味わえない、そういう空気が流れる場所なのです。劇場は・・・。演劇や音楽、落語、漫才、コンサートなどを演じたり演奏したりすることで、感動や笑いなど人間しか持ち得ない感情を与えることがで

きるのです。私の仕事は、人間が人間らしくあるための重要な仕事だと自負しております。生きる上で必要なものはたくさんありますが、人間の特権である感情を豊かにする。そして、感情というもので刺激を受け、明日に向かって行こうと思うのではないのでしょうか。そして、きっかけになるのが演劇や音楽などいわゆる芸術ではないのでしょうか。

目の前で演じている役者たちが熱を発していく。その熱がご覧いただいているお客さまに届き、そして、お客さまからの熱が役者たちにも届く。エネルギーのキャッチボールですね。これが、どこで行われているかということ、会館や劇場なんです。

### 必要があるから残る芸術

演劇や音楽は太古から国境を越えていろいろなところで存在してきたものです。いろいろ形を変えてもずっとあります。ない国はありません。とりわけシェークスピア、ベートーベン、モーツァルトなどはブームで廃れることなく、現在まで残っているのです。

これは、「需要」があったからです。つまり必要だから残ってきたのです。

### 古河で公演をやりたい

CG(コンピューターグラフィックス)技術が高度になり、役者がいなくても映画などでできてしまう時代がきています。そして、デジタル化が普及しスピード、便利さが進んでいます。一方で「ぬくもり」はどうするか？ 人の「ぬくもり」、人の「息」はデジタルでは無理です。肌や何かで感じ取れる空気というものはアナログなのです。テレビ、ラジオ、映画などの仕事をやらせていただいています、「何でいまだに舞台をやっているのか？」と聞かれます。それは、エネルギー、そしてぬくもりのキャッチボールができるからです。

古河は東京へも近いし、買い物も便利です。また、情報においてはインターネットやテレビなどで得ることができ、どこに住んでいても不自由はないと思います。しかし、「ぬくもり」は不自由になってはいけません。一番大切なことは、「ぬくもり」をみんなで持ち寄れる場所が必要だと思います。

個人的なことですが、私が志してやってきている劇団の芝居の全国公演を古河ではやったことがないんです。一番やりたいのは古河なんです。もう一度言いますが、私のベースは古河です。古河で経験したことがあるから今があり、そして、明日に向かってやっていけます。これからも自慢できる故郷であって欲しいと願っています。

## ◆パネルディスカッション



- コーディネーター：おぼせ 小場瀬令二さん (筑波大教授)  
パネリスト：◎渡辺 徹さん (俳優・古河大使)  
◎西川信廣さん (社団法人 日本劇団協議会会長)  
◎松本守雄さん (古河市行政自治会会長)  
◎渡辺恒久さん (古河市文化協会会長)  
◎関根ひろ子さん (古河市男女共同参画推進会議会長)  
◎白戸仲久 (古河市長)

### 「地域における文化施設の役割～市民と文化芸術について～」(主な意見)

**渡辺恒久さん**：古河は古くから河川物流を通して、都から文化が伝わってきた。それが、今の文化活動の原点。世界的な芸術家もいる。そんな古河に25年ぐらい前から文化施設の必要性を訴えてきた。近隣の施設も利用形態が多様化し、今後は他の自治体の人には借りられなくなることも考えられる。これは、近隣の市や町においても文化活動が活発化しているということ。地元で演劇や音楽など芸術を表現できる場がぜひ欲しい。



**渡辺徹さん**：古河において文化施設が、どう必要なのか考えなければいけない。合併した今、市民がひとつになり、痛みや喜びを分かち合っていく。そういった中で、みんなが集う場所としても文化施設は必要だと思う。そして、子どもの発表など、大いに幼稚園、学校に貸し出すことも非常に大切。文化というのは、投資と考えるべき。施設にかかるお金ではなく、将来に向かっての浪費ではなく投資。場所は、市民が使いやすいところはもちろんだが、市外の人も訪れやすく、交通の便が良いところが良い。



**西川信廣さん**：イギリスの地方都市ブリストルに劇場の研修に行ったことがあり、そこでは、市民がやりたいものがあれば夜中でも使用できるシステムで、「劇場は地域住民のためのもので、演劇をやるものだけでない。」と言っていた。地域劇場は現在、鑑賞型から市民に体験、経験をしてもらう体験型と言われ、それが、地域劇場の役割と研究者は言っている。市民が劇場へふらっと寄ると、ドアの向こうでは演劇や音楽、その練習もやっている。興味があれば入っていく。そして、いろいろな情報が得られる。それが開かれた劇場。劇場は市民にとって運営も含め、誇りに思える施設にしなくてはいけない。また、古河市として文化政策をきちんと位置付けることも必要。基本計画を拝見すると日本のモデルケースになるような施設になると感じるのでとても期待している。



ることを実感した。また、整備された使い勝手が良い文化施設が必要と切実に思った。そして、次代を担う子どもたちが文化や芸術を観たり触れたりして、心に資産を残し、育っていてもらいたい。古河市の地域力、人材は素晴らしい。文化施設ができたならば、私たち市民サイドでも支援したいと考えている。そして、市民も知恵を絞って利活用することも必要。

**白戸市長**：市民の皆さんに合併効果を実感していただくことが大事と考えている。まさに合併の真価を問われる時期に差し掛かってきたと受け止めている。日野自動車の誘致を優先した理由は、総合的



文化施設などのプロジェクト実現に向け、まずは、将来的な財源確保が大切と全力を向けて取り組んだ。文化の持つ力は人々に元気を与え、心を豊かにしてくれるもの。文化行政を総合的な視点から展開していき、やがては市全体の活性化につながるためにも有利な

合併特例債を利用して、古河の核となる文化施設が必要である。将来の古河市のために必ず、大きな役割を担ってくれると確信している。また、予定地については、ボーリング等の調査を実施し、専門家から液状化などの問題はないとの結果ももらっているので心配はない。



**松本守雄さん**：古河公方当時は、地方分権の政治の中心だった。そんな中で古河ではたくさん文化が生まれ、現在も引き継いでいる。人が集い、語り合う場がない地域の発展は望めないと思う。人が集まると文化が生まれ、絆もできる。古河市公会堂が閉鎖になり、古

河には何もなくなった今、人の集える場が欲しい。ただし、将来、子どもたちに負担がかからないよう運営等議論することも大切である。

**関根ひろ子さん**：所属している団体でフォーラムを数回開催した。フォーラムを開催しているうちに人は出会って、触れ合って、話し合って地域が活性化す



**小場瀬令二さん**：皆さんの話を聞いていて、人と人のコミュニケーションの必要性、大切さを私も感じた。そのためにも自分たちの劇場を持つことは大事。使い方は鑑賞、集うことも重要だが、創造、体験の場所を狙った多目的な文化施設が良い。単に箱モノにならないような施設になるためには、管理運営が非常に重要である。未来への投資ということで、子どもがワクワクするような施設をつくっていった方が良いと、コーディネーターとして参画して感じた。



# 古河市地域交流センターが いよいよ2月1日にオープン!



古河市地域交流センターは、住民の相互交流の場、歴史・文化資源の情報や市民活動の情報発信となるよう、また、未来に誇れる・魅力あるまちづくり活動の拠点となるよう、国のまちづくり交付金制度や合併特例債を活用して平成22年9月に着工し、昨年12月に完成しました。施設の愛称は公募により「はなももプラザ」と決定し、2月1日にオープンします。より多くの皆さまのご利用、ご来館をお待ちしています。

【問】古河市地域交流センター(はなももプラザ) ☎21-1255

## ■建設の歩みは

平成20年度	基本計画
平成21年度	実施設計
平成22・23年度	建設工事(建築・電気・機械・屋台修復)

## ■施設の概要

所在地 古河市横山町一丁目2番20号

総工費 6億2675万円(監理費含む)

### 【建物概要】

- 構造・階数 鉄筋コンクリート造2階建て
- 敷地面積 2,544.01平方メートル
- 建築面積 1,033.95平方メートル
- 延床面積 1,784.62平方メートル
- 1階 1,008.77平方メートル(屋台ホール/視聴覚室、多目的ホール、観光ギャラリー、創作室等)
- 2階 775.85平方メートル(和室、会議室、調理・創作室、学習室等)

※11人乗りエレベーター、男女別トイレ、多目的トイレ、駐車場(51台収容/第二駐車場含む)、40トン防火水槽あり。

## ■ご利用案内

開館時間 午前8時30分～午後10時

休館日 年末年始(12/29～1/3)

## ■施設利用開始日

施設利用開始日 2月1日(水)

利用予約は、1月20日(金)午前8時30分から、古河市地域交流センター(はなももプラザ)窓口で受け付けます。

※電話・ファクシミリ・メール等での予約申し込みはできません。

※公共施設予約システムでの予約申し込みは2月2日(木)から可能です。

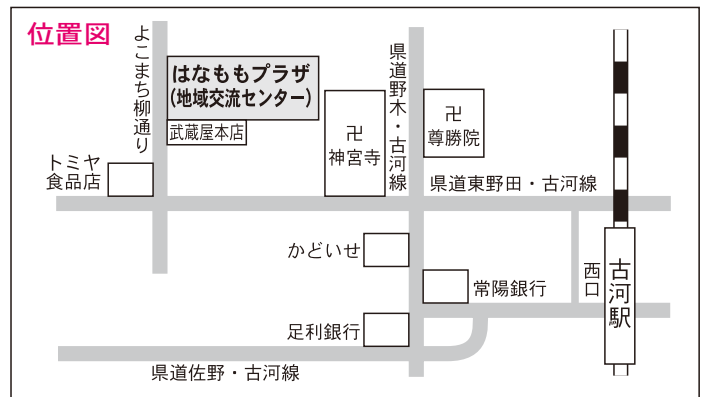
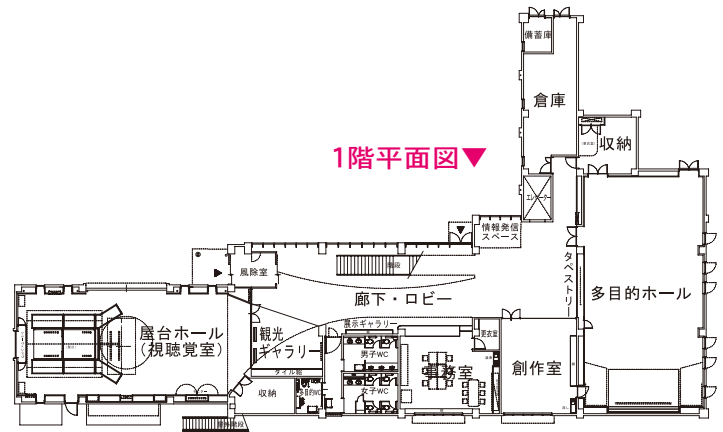
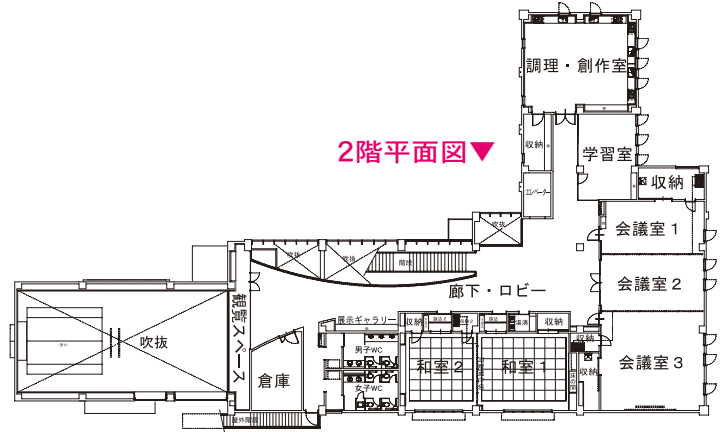
※1月27日(金)は竣工式典開催のため受付休止です。



## ■施設の使用料等

(単位：円)

利用区分／時間	午前9時 ～ 正午	午後1時 ～ 5時	午後6時 ～ 10時		
創作室(24人)	500	500	750		
会議室1(24人)	500	500	750		
会議室2(27人)	500	500	750		
会議室3(45人)	500	500	750		
和室1(24畳)	500	500	750		
和室2(18畳)	500	500	750		
学習室(9人)	—	—	—		
調理・創作室(24人)	1,000	1,000	1,500		
備品	ピアノ	500	500	500	
	屋台	1,000	1,000	1,000	
利用区分 ／時間	午前 9時30分 ～ 11時30分	午後 0時30分 ～ 2時30分	午後 3時 ～ 5時	午後 5時30分 ～ 7時30分	午後 8時 ～ 10時
多目的 ホール (150人)	1,000	1,000	1,000	1,500	1,500
屋台 ホール (視聴覚 室・90人)	1,000	1,000	1,000	1,500	1,500
イベント広場 (駐車場)	午前	午後	全日		
	1,000	1,000	2,000		



### ●施設見学会のご案内

日時：1月18日(水)午前10時～正午、午後1時30分～3時30分(2回開催)

集合場所：古河市地域交流センター多目的ホール

※どなたでも参加できます(駐車場に限りがありますので乗り合わせをお願いします)。

あなたの子育て、  
応援します！



市では、平成22年度の1年間で、1,135人のお子さんが生まれており、県内第6位の出生数です。

お子さんが生まれた家族が楽しく、安心して子育てができ、生まれてきたお子さんたちが健やかに成長できるよう、市では子育てをしている皆さんを応援しています。

今回は、特に、健康推進課で実施している子育て支援について紹介します。

妊娠中から、友達を

マタニティスクール

妊娠中から、地域で友達をつくっておきましょう。同じ悩みを持つ妊婦さん、これから育児をするプレママ同士、友達づくりのお手伝いをしています。マタニティスクールに参加してみませんか？

助産師さんのお話や先輩ママとの交流など、講話や実習を行います。最後には、ママからおなかの赤ちゃんへのメッセージを書いていただいています。お子さんが大きくなったとき、それをきっかけに、生まれたときの話をしてほしいと伝えています。

○妊婦健康診査の充実

妊娠届出時、妊娠中をより安全に、安心して出産に備えられるよう、妊婦健康

診査の受診券を交付しています。平成21年度より、それまで5回の公費負担の回数が、14回と、回数が増えただけでなく、健診の検査内容も感染症の検査が増えるなどより充実しています。妊娠中の家族への経済的負担の軽減、安全・安心な出産のための支援が図られています。妊娠が分かりましたら、早めに妊娠の届出をしましょう。

プレパパ、プレママ体験を！

両親学級

子育ては父親、母親、家族みんなで行うものです。決して、母親だけが行うものではありません。両親学級では、妊娠中から父親の育児参加を呼び掛け、夫婦で子育てするということを意識付け、妊娠中のママの大変さを理解してもらうなどの体験学習をしています。



※プレパパ…これからパパになる人  
プレママ…妊婦

▲妊婦体験。大きなおなかは大変

▶お風呂に入れる体験は緊張します





## 赤ちゃんが生まれたら



### こんにちは赤ちゃん訪問

赤ちゃんが生まれると生活は一変、ことに初めての赤ちゃんの子育ては、不安でいっぱいです。赤ちゃんが生まれると、家庭訪問をし、お子さんの発育状況の確認や子育て中のママの相談に乗っています。市では、生後4カ月までの全ての赤ちゃんに対して家庭訪問を実施しています。早めの訪問をご希望の方は、ぜひ、ご連絡ください。

おばあちゃんなど周りの人に相談しますか？一人で悩まず、とりあえず、誰かに相談(話)してみましょう【保健師や栄養士が、随時電話相談に応じています】。



### 乳幼児健康相談

子育て中のママにとって、お子さんの成長や食事のこと、しつけに関する事など、悩みはつきないものです。そんなママたちのために、気軽に相談できる場として、乳幼児健康相談を各地区(古河福祉の森会館・総和福祉センター「健康の駅」・三和庁舎)で実施しています。相談だけではなく、ママたちあるいはお子さんたちの友達づくりの場にもなっているようです。

## 子育てで疲れたり、困ったら



### 例えばこんな相談

- ・子どもが泣いているけど、何をしても泣き止まない……。
- ・子どもが言うことを聞かずイライラ。どうすればいい？
- ・一日中子育てに追われ疲れて、クタクタ。

## こんなことも・・・

なかなか歩かない、言葉が遅いなど、乳幼児の運動面や発達に関する事で心配なときは、ぜひ、ご相談ください。専門職による発達相談を行っています(要予約)。



### 電話相談

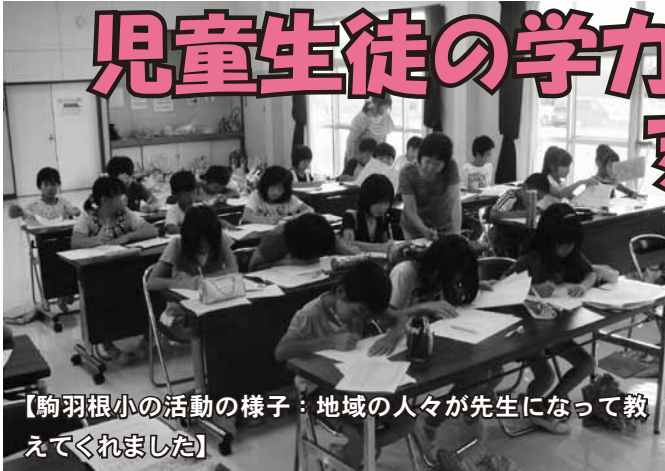
子育て中のママにとっては、悩みはつきものです。そんなとき、皆さんはどうしますか？ 育児書を開きますか？ それとも、パソコンのインターネットを開きますか？ 先輩ママや友達、

子育ては、一人で行うものではありません。子どもたちのため、子育てを地域で優しく見守り、支えていきます。子育てに悩みがあったら、まずは、お気軽にご相談ください。

**【問】健康推進課(古河福祉の森会館内)**  
☎48-6881



# 児童生徒の学力向上を 支援しています



【駒羽根小の活動の様子：地域の人々が先生になって教えてくれました】

市では、児童生徒の学力向上のために、市内小中学校32校全校で実施している「古河市学校づくりチャレンジ事業」を積極的に推進しています。

実施2年目になる今年は、夏休みや放課後の補習、さまざまな講座などを通して、児童生徒の学力向上に取り組んでいる学校が増えました。

【問】古河庁舎 指導課 ☎22-5111

## ■ 小学校の主な取り組み

- 夏休みに学習サポーターによる算数の学習を行いました。
  - 印刷できるワークシートを活用して、ドリル学習を充実させています。
  - 平日の放課後に学習サポーターによる補習を行っています。「わたしは、学びの広場で算数プリントをたくさんやりました。10枚以上やってたいへんだったけど、答えをだすのがはやくなった気がしてうれしいです。」
- 【駒羽根小4年 糸井陽南<sup>はるな</sup>さん】  
「私は、ほじゅう学習で、面積

を求める問題や見本と同じように、かく問題ができるようになりました。できなかった問題ができてうれしかったです。」

【西牛谷小4年 生井彩羽<sup>いろは</sup>さん】

## ■ 中学校の主な取り組み

- 夏休みに希望者による「夏季セミナー・弱点克服講座」を設定し、補習を行いました。
- 平日の放課後に「基礎力アップ講座」を行い、基礎学力向上を図っています。
- 家庭学習の手引きや学習予定表を作成し、家庭学習の習慣化を図っています。

「私たちは、サポーターの皆さんに細かいところまで分かりやすく教えていただきました。難しい問題にも挑戦し、苦手意識を克服することができました。」

【古河三中2年 西住夏歩さん】

「三和北中の先輩や教育実習生の先生が、学校の先生とは違った視点で熱心に教えてくださり、苦手教科を克服することができました。またぜひ教えてほしいし、学んだことを受験勉強に役立てたいです。」

【三和北中3年 志賀峻さん・齊藤幸二さん】



【西牛谷小では地域の人が先生に】



【古河三中では高校生が先生に】



【三和北中では教育実習生が先生に】

# 火災の多い季節です

寒さもいっそう厳しくなり、家庭でも暖房器具を使う機会が多くなりました。

また、空気も乾燥し、火災が発生しやすい季節でもあります。火の取り扱いには十分注意しましょう。



～消したはず 決めつけしないで もう一度～



## ■外出や就寝前には必ず火の元の確認を

冬の暖房といえば「ストーブ」や「こたつ」などがありますが、これらが原因となる火災が冬になると多くなります。お出かけ前やおやすみ前には、必ず暖房器具の“消し忘れ”の確認をお願いします。

また、火に鍋をかけたままその場を離れてしまい、他の用事に気を取られているうちに起こる火災も多発しています。大切な財産を失わないためにも、



火の元の確認を怠らないようにしましょう。



## ■女性消防団員による広報活動を行いました

平成23年11月9日からの秋の防火週間に合わせて、9日(古河地区)、12日(三和地区)、15日(総和地区)の3日間、女性消防団員による火災予防の広報活動を初めて行いました。

また、古河市消防団による夜間パトロールも各分団ごとに行いました。



## ■消防春季点検式を開催

2月26日(日)には、中央運動公園イベント広場および総合体育館において古河市消防春季点検式を開催します。消防ポンプ車が集結し、消防団員の規律正しい姿を披露します。

ぜひ、ご覧ください。

## 消防団員を募集しています

市では、火災や災害で活動する消防団員を随時募集しています。市民の生命、財産を守る消防団活動をしてみませんか。

【問】 総和庁舎(本庁)  
消防防災課 ☎92-3111

# 「わたらせ水辺の楽校」 をご存じですか？



「わたらせ水辺の楽校」(三国橋下の河川敷)

「わたらせ水辺の楽校」は、渡良瀬川に架かる三国橋下の河川敷にあり、子どもたちが安全に水辺での遊びや自然体験、環境学習ができる場であり、また市民が水辺と親しむことができる憩いの場でもあります。

【問】古河庁舎 生涯学習課 ☎22-5111

## 「水辺の楽校」ってなに？

国土交通省では、水辺での活動を安全かつ充実したものとするために必要な整備を行う「水辺の楽校プロジェクト」を推進しており、楽しく、学ぶ目的を持つ場所の意味から、この場を「学校」になぞらえた「楽校(がっこう)」と称し、全国で活動を展開しています。

「わたらせ水辺の楽校」は、平成15年2月に国土交通省に登録され、平成22年7月に整備が完了し、開校しました。

## 「わたらせ水辺の楽校」

### (1) どんな所なの？

「わたらせ水辺の楽校」は、渡良瀬川に架かる三国橋の下(左岸)にあり、広さは約32,000平方メートルあります。ワンド(入り江のようなもの)や散策路があり、四季折々の植物、昆虫、魚そして鳥とともに、その時々川の表情の変化を楽しむことができるなど、楽しみ方は利用する人それぞれの工夫次第です。

このような自然に恵まれた渡良瀬川を、大切にしながら活用しようと、市民や各種団体の代表で構成する「わたらせ水辺の楽校運営協議会」が自然と触れ合う事業や多くの人々が楽しく活用できる水辺環境の場づくりなどを進めています。

### (2) どんなことを行っているの？

「わたらせ水辺の楽校」では、運営協議会で決定した年間計画に基づき、小学生を対象にした水辺に関する自然体験学習会や会場の清掃を行っています。今年度実施した学習会の内容を紹介します。

#### ○1回目(9月) テーマ：「魚について」

川魚の観察、甘露煮にした鮎ふなの試食、川魚のクイズ、ストーンペイント(石に絵を書く)やペット



▲ストーンペイント作品

#### ○2回目(11月) テーマ：「鳥について」



野鳥観察、バードコール(木材とねじを使って、鳥のさえずりのような音を出して、鳥を寄せつけるもの)作り

◀野鳥観察の様子

## 楽校をご利用ください

今後も、水辺の楽校では、運営協議会が中心となり学習会等のイベントを開催していきます。

また、水辺の楽校の施設は、「いつでも」「誰でも」利用できますので、水辺の自然に親しんでみてはいかがでしょうか。



# 叙勲・大臣表彰を受賞

## 秋の叙勲

### 旭日中綬章



粕田良一さん  
(70歳、下大野)  
元県議

### 瑞宝双光章



宇田昭一さん  
(84歳、小堤)  
元特養ホーム施設長

### 瑞宝単光章



勝倉悦子さん  
(67歳、東牛谷)  
猿島厚生病院看護助手

## 大臣表彰

学校保健及び学校安全  
文部科学大臣表彰



佐賀 哲さん  
(84歳、長谷町)  
元学校医

## 危険業務従事者叙勲

### 瑞宝双光章



千葉 茂さん  
(61歳、駒羽根)  
元1等陸尉

### 瑞宝双光章



林 博さん  
(61歳、大堤)  
元1等陸尉

### 瑞宝単光章



上村利郎さん  
(61歳、上辺見)  
元3等陸尉

### 瑞宝単光章



沼尻健藏さん  
(65歳、中田)  
元東京消防庁消防司令長

## スポーツ大会で活躍

### 全国大会に出場

- 第15回全日本シニアソフトテニス選手権大会  
【松本笑子さん】
- スポーツマスターズ2011ソフトテニス  
【木崎雅久さん、白畑薫さん、塚原菜穂子さん】
- 第39回全日本社会人ソフトテニス選手権大会

【山田祐樹さん、田内大貴さん、町長直也さん、  
栃木翔吾さん、木崎雅久さん】

○第6回全日本シニアレディースソフトテニス  
決勝大会【松本笑子さん】

### 関東大会で優勝

- 第27回関東小学生バレーボール大会  
【古河ますらお】

# まちの話題

## 熱気ムンムン!

### 「第151回古河提灯竿もみまつり」

テレビ東京「出沒! アド街ック天国」で1位に紹介された古河提灯竿もみまつりは、12月3日駅西口で開催されました。当日は前夜からの雨も午後には上がり、師走と思えないほどの暖かさ。テレビ放映もあったせい今年は例年より多い約8万人の見物客が会場を訪れ、勇壮に提灯をぶつけ合う関東の奇祭にたくさんの方の歓声が上がっていました。



竿のバランスを取るにはチームワークがとても大切です



アイデアを凝らした提灯が師走の夜空を熱くします

## 華むすめが決定

12月11日、中央公民館において平成24年度古河華むすめ選考会が行われ、24人の応募の中から4人が古河華むすめに選ばれました。今後、3月の古河桃まつりを皮切りに市内のイベントと一緒に盛り上げてくれます。どうぞ、ご期待ください。



左からしもしたみさこさん、せいな、ゆか、わたなべじゅりあさん

## 未經産牛でグランドチャンピオンの快挙

荻野清隆さん(東山田)飼育の乳牛が、11月12日開催の第29回茨城県B&Wショウ未經産牛の部でグランドチャンピオンを獲得しました。

これは、きぬ酪農協同組合で

始まって以来の快挙です。「結果が出るまではドキドキでしたが、チャンピオンになった時は、感動しました。家族全員で喜びの瞬間を味わえたことが宝です。餌には特に気を付け、愛情込めて育てた結果では。」と喜びを隠せない荻野さんでした。



チャンピオンと一緒にの荻野さんとトロフィーを手にした妻の美恵子さん



## みんなの目を楽しませた 菊まつり

10月27日～11月23日の28日間、ネーブルパークで「第6回古河菊まつり」が開催されました。会場内は古河市の「菊花会」による約1,200鉢の菊の花が咲き誇り、来場者の心を癒しました。また、市内の保育園児が育てた菊80鉢の展示や、菊の天ぷらや茶そばの販売なども行われ、期間中訪れた約9万5,000人を喜ばせました。



古河菊むすめ会場内で来場者をもてなし花を添えました

## 日光街道に常夜灯を 設置

市内の景観と江戸時代、日光社参や参勤交代で多くの大名が行き来した「日光街道」の風情を醸し出すため、かつて街道沿いを照らした常夜灯を設置しました。観光施設の案内が明示してある常夜灯もあり、台町交差点から松原交番跡地までの県道野木古河線沿いなどに大中小19基を設置。市内を散策する人の目を楽しませています。



大型の常夜灯は高さが3.5メートルもあり市内の目印にもなります

## 中央運動公園で散歩しながら健康づくり

11月21日、中央運動公園芝生広場に6台の健康遊具が設置され、竣工式が行われました。この遊具はお年寄りはもちろん幅広い年齢の人が使える遊具で、ストレッチ効果の高い器具や、船こぎや自転車こぎに似た簡単な運動をする器具などもあります。なお、講習会が1月12日(木)午前11時～、31日(火)午後2時～、両日30分程度行われます(雨天中止)。



公園内の遊歩道を通る人に利用しやすい場所に設置してあります

## 伊豆・下田を満喫してきた市民号

古河市民号が11月10日～11日に大型バス4台で静岡県下田市に向かうコースで実施されました。途中各名所を散策、宿泊先の下田のホテルで温泉につかり、懇親会では地元の逸品料理に舌づみ。楽しい2日間になりました。



下田に向かう道中には名所が盛りだくさん。秋の伊豆は見どころ満載です



夕食は大宴会場で抽選会やアトラクションで盛り上がりました

# キラッ! 輝く人たち

2011年のプロ野球は、日本シリーズで中日との白熱した試合を制し、ソフトバンクが日本一に輝いたのは記憶に新しいところですが、そのソフトバンクからドラフトで3位指名を受けて入団する塚田さんは、中央小、総和中、古河一高、と野球を続け、白鷗大では4番ショートで活躍。地元の古河一高出身のプロ野球選手が誕生しました。

## 野球との出会い

小2で地元の少年団で始めた野球。いつしか仲間たちと楽しい野球の魅力に取りつかれていました。中学ではサードかショート、高校ではショートのポジションで練習を重ね活躍。

大学でもショートを守り1年生から試合に出場。高いレベルを目指し、厳しい練習を自らに課し、努力を続けました。俊足好打で、大学が属するリーグのベストナインや本塁打の記録を更新し、タイトルを独占。4年生になると、自然ともう一つ上のプロ野球の世界に飛び込みたいと思うようになっていました。

## 積極的なバッティングで勝負したい!

憧れでもあった、プロ野球。どの球団でもと思っていたとこ

## 日本一の輪に加わりたい

ソフトバンクホークス ドラフト3位指名  
つかだまさよし  
塚田正義さん(22歳 白鷗大 下大野)



ろ、ソフトバンクホークスから3位の指名。厳しい勝負の世界にあえて飛びこみ今は「やってやろう」という気持ちが強いそうです。ソフトバンクのイメージはファンの応援が熱いチーム。以前、キャンプ地を訪れて生で見た練習は、選手の姿勢に圧倒された思い出が…。また、大学の先輩がチームに在籍するのも心強く、「早くプロのスピードに慣れ、バッティングで勝負したい」と話す塚田さん。そして、同じ大学のチームから3人がそれぞれ違う球団に指名され入団、お互いに切磋琢磨して頑張ろうと励まし合っています。

## 野球で恩返し

「あいさつと道具を大切にする気持ちを忘れない」塚田さんに、福岡で地元・古河のことを

聞かれたら? と質問すると「周りの人が本当に温かいまちです」とやさしい笑顔に。野球をやるのが自分に与えられた使命と語りながら、トレーニングを欠かさずに、来たるキャンプに向け練習に励んでいます。「これからは、野球を通じて今まで注いでもらった周りからの愛情に恩返しをしたい」とその固い決意を話してくれました。



塚田さんは礼儀正しい好青年。趣味は読書で特に歴史物が好み。丈夫な体であることに感謝しながら、球団の地元・福岡で精一杯頑張りますと力強く握手をしてくれました。

## 図書館のオススメ

### ◇一般書

・おもちゃの王様が語るおもちゃの昭和史

佐藤安太 著

ダッコちゃん、リカちゃん、チョコQなどのメガヒットを生み出したタカラ創業者・佐藤安太。タカラ退社後は教育界に第2の人生を求め、86歳で博士号を取得。戦火を生き延びた男が濃密なる昭和史を語る。

出版社…角川書店 分類…589サ

・怪物

福田和代 著

「死」の匂いを感知する定年間近の刑事・香西は、最新鋭のゴミ処理施設で思いがけず

「死」の匂いを嗅ぐ。その部屋の主はすべてを溶かす水の若き研究者・真崎。香西は彼の過去を探り…。『小説すばる』連載を加筆修正し書籍化。

出版社…集英社 分類…Fフ



### ◇児童書

・マルガレーテ・シュタイフ物語  
磯みゆき 著

世界中にファンを持つ「テディベア」の会社シュタイフの創始者マルガレーテ・シュタイフが、障害に負けず、自分に負けず、女性として、経営者として成功を築くまでを描いた感動ノンフィクション。

出版社…ポプラ社 分類…289

・メロウ せな けいこ 再話

アイルランドの海岸に、ジャックという漁師が住んでいました。そこはさびしい荒海のそばで、近くに誰も住んでいませんでしたが、アザラシやカモメや、そしてもっと不思議なものがいて…。アイルランドに昔から伝わる人魚の話。

出版社…ポプラ社 分類…Eメ  
古河図書館

## ～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～

### 注目企業人!

「パン職人の匠を目指して」

飯田知陽さん 26歳・関戸 山崎製パン(株) 古河工場勤務

青森県出身で、大学があった岩手から古河に初めて来たのは4年前。冬に雪が降らないことと夏の暑さに驚きながらも、思い通りにいかないことも多いというパンの仕込みにこだわりながら経験を重ねます。

現場の「仕込み」は、生地の良い悪しが全てといわれるパン作りの中で、成形、焼成、包装と進んでいく基本となり、体力が必要な仕事。パン屋さんになりたいという、小さい頃に抱いた夢が実現した現在、自分が作った商品がみんなに美味しいと、食べてもらえるのが大きな励みです。

また、生き物でもあるパンは環境にも大き

く左右され、扱いが非常に難しい分野。一晩眠れば切り替えができるという早さと、おいしいものを食べてストレス発散という飯田さんは、これからも伝統の味を守りつつ、「自ら企画した新製品を作って世界でヒットさせたい」と、ひときわ目を輝かせます。

#### ■プロフィール

モットーは「成せばなる」。趣味は旅行で、就職の関係で北は北海道、南は九州で頑張る5人の兄弟を訪れ、その観光地で名産品を食べるのも楽しみだとか。



# 古河ヒストリー

## ◎正月の迎え方いろいろ

### ～餅は無くともお正月～

お正月のとある<sup>ごふくや</sup>呉服屋。旦那さまが食べようとした<sup>ぞうじ</sup>雑煮の餅に釘が入っていた。餅のなかに金物とはいかかなものかと思っただが、機転を利かせた番頭、「餅のなかから金が出てきたとはめでたい。ますますこの家は『金持ち(餅)』になりましょう」といった。それを見ていた小僧は、「金のなかから餅が出てくりゃそうだが、餅のなかから金が出てきたんだから、この家の<sup>しんしょう</sup>身は持ち(餅)かね(金)ます」と。落語「かつぎや」には、こんな場面があります。今回は季節がら、餅の話を。

例えば丸いと思われがちなお供え餅。これまで、お正月にあちこちお邪魔して見せていただいたお供え餅を思い出してみると、上片田で見かけたお供えは、丸餅の上に三角に切ったもの。大和田や下片田では丸餅に四角い餅。この他、三日月形に切った餅を供えるところも。実にさまざまなかたちをしています。

また、食べるほうはどうかというと、正月に必ず餅を食べるというわけではない。1月1日あるいは3日まで餅を食べない

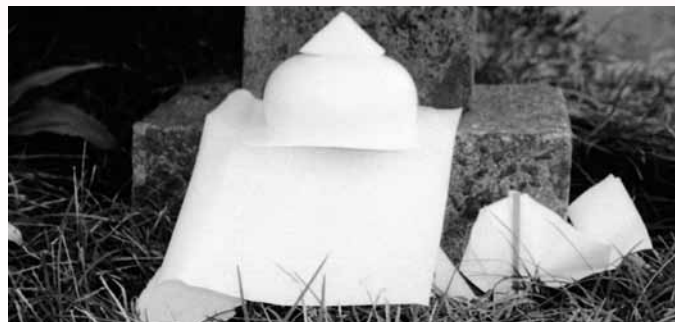
という家が市内にもけっこうあり、小立野のHさんによれば、3日までうどんを食べるものだったという。その多くが“おでき”ができるからだというのが、このような正月に餅を食べないという習俗はけっして珍しいことではなく、各地にあることがわかっています。民俗学ではこれを餅なし正月と呼んでおり、神へ供物として捧げながらも餅を食べないことから、正月に来訪する神へのはばかりであるとか、生業形態の反映であるとか、さまざまに解釈されています。

それにしてもこういった地域の独自文化が少しずつ減少しているのが現実です。多様な文化が画一化されていく。その過渡期にわたしたちはいます。スーパーマーケットやホームセン

ターの広告、あるいはテレビのコマーシャルなどを見ていると、日本のどことも知れない習慣をイベント化していることがあります。わたしたちの当たり前はどこにあるのか、これは今のうちに見極めておく必要があるのではなからうかと思う次第です。スーパーの棚でぼんやりと商品を見ているわたくしをどこかで見たら、感慨深くそんな思索にふけてると思ってください。本当は、買い物を頼まれてしまい、どれを選んでよいのかわからず、途方に暮れている姿かもしれません。

めでたさも一茶位や雑煮餅／  
雑煮くふてよき初夢を忘れけり  
子規

古河歴史博物館学芸員 立石尚之



丸と三角のお供え餅(上片田)

# 文化の扉

## 「辰年にちなんで」

平成24年の干支は壬辰(みずのえたつ・ジンシン)で、十二支でいうと辰年です。辰は動物では「龍(竜)」に当てられ、十二支の中では唯一想像上の動物になります。

龍は神獣・霊獣であり、中国では皇帝のシンボルとして扱われています。日本にはさまざまな文化とともに中国から伝来し、日本固有の蛇神信仰と融合しました。とくに水の神(水神)として各地で民間信仰の対象となりました。

市内三和地区には、龍を彫った石仏が三基確認されています。これら三基の石仏は俱利伽羅不動と呼ばれるもので、磐石上に立つ利剣に龍が絡み付き、剣先をまさにのみこもうという姿であらわされます。この利剣は不動明王の持物であり、龍が利剣にまとう形

は不動明王の三昧耶形(象徴)とされています。俱利伽羅不動の造立の目的としては、水神としての造像、不動明王を本尊とする寺院や修験道の行場にみられる不動信仰に基づいた造像が考えられます。三和資料館では「辰年にちなんで」と題したミニ展示を1月29日まで開催します。今回紹介した俱利伽羅不動の写真パネルや辰年の暦、辰年の古文書など辰年や龍に関する資料を展示します。ぜひご観覧いただき、龍のパワーを感じてください。(三和資料館)



▲谷貝・香取神社の俱利伽羅不動

## 古河市にゆかりのある小説や人物を紹介

# 古河文学・人物館

## 『散文詩の巨匠・粒来哲蔵』

「その詩は喚起力に溢れている。喩が映像を喚起するだけではない。その映像が僕にはさまざまな意味空間の表象として立ち上がってくる」と、芸術院会員の詩人・小説家である辻井喬氏が絶賛する詩人が古河に在住しています。今回ご紹介する粒来哲蔵氏です。

粒来氏は昭和3年山形県米沢市生まれ。小学校のころから母の影響で俳句・短歌に親しみ、旧制安積中学時代から詩作に没頭します。このころ草野心平と出会い、強烈な影響を受けました。その後、福島師範学校を経て教員生活に入り、昭和27年、古河第一小学校に赴任します。



▲粒来哲蔵氏と最新刊『蛾を吐く』(花神社)

昭和29年に東京の公立学校に移り、詩誌「歷程」の同人となって草野心平に再会。また井上靖、辻一、山本太郎らとも知己を得て、本格的に詩人として歩み始めます。

緻密で堅固に構築された散文詩型の氏の作品は、よく「現代の寓話」と評され、数々の現代詩選集に収録されるなど高い評価を得ています。昭和35年に詩集『舌のある風景』で土井晩翠賞、46年に『孤島記』で現代詩人会H氏賞、52年に『望楼』で高見順賞、平成14年には『島幻記』で現代詩人賞を受賞するなど、まさに、現代詩壇の巨匠の一人といえましょう。

古河文学館 秋澤正之

食物アレルギーは、本来生きるために必要な食べ物が、体に良くない症状を引き起こしてしまうものです。

症状は「皮膚が赤くなる、かゆくなる」「せきがでる」「ぐったりする」など幅広く、その多くは、赤ちゃんのときに現れ始めます。

食物アレルギーの原因は、食べ物に含まれるタンパク質である場合が多く、食べたり飲んだりすると、体が異物と思いさまざまな症状が現れます。症状は軽い場合もありますが、命に関わる深刻な場合もあります。

食物アレルギーの診断は、かかりつけの主治医や、専門医のいる病院で、相談や診断をしてもらうことが必要です。自己判断で、食物除去をすると子どもの成長や発達に差し支える恐れがあります。

本来除去する必要のないものや、必要以上に除去することのないように、きちんと指示を受けましょう。

少量なら食べられる食品でも一度に大量に食べるとアレルギー反応が出る場合があります。初めて食べる食品は、少しだけ一口食べさせて、しばらく様子を見ながら、増やしていきましょう。

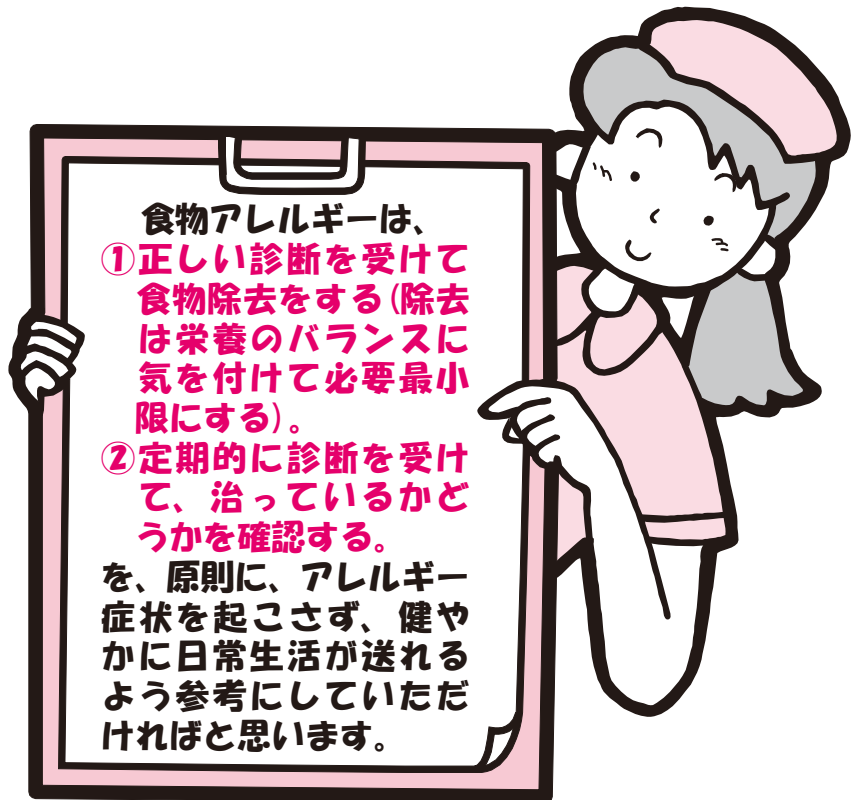
食物除去の必要がある場合は、献立の工夫が必要です。栄養のバランスを考え、不足した栄養を補いましょう。例えば、牛乳の除去が必要な場合は、小魚や大豆などで補う必要があります。

また、食べられる時期がきたら、食物の除去を解除することが大切です。乳幼児の場合は、半年から1年に1回程度、定期的に医師に相談して食べられる

ようになっているか確認し、必要のない除去はしないよう注意が必要です。

食物アレルギーは、赤ちゃんや子どもだけが引き起こすものだけではなく、大人でも症状が出る場合があるので、赤ちゃんや子ども同様に、定期的に診断を受けて自分の状態を確認しましょう。

(健康推進課)



# 憩いのパークの魅力



▲富士見の丘での芝すべり

## 昔の子どもの冬遊び

年も明けて、公園も一段と寒さが厳しくなってきました。公園の動植物は、ジッと動かずに春を待ちわびています。

皆さんもこたつの中に丸まって入っているのでしょうか。

こんなとき、昔の子どもたちは、どんな遊びをしたのでしょうか。

たこ揚げや羽根突き、芝すべりにかくれんぼなど、冬でも元気に外遊びをしていたようです。

しかし今では、街の雰囲気もがらりと変わってしまいました。たこ揚げをしようと思えば、電線に引っ掛かり、羽根突きは、隣の家屋根に乗ってしまおう、かくれんぼをしようにも近所にちょうどいい空き地はありません。

さて古河総合公園は、どうでしょうか。公園の真ん中にある

広々とした芝生広場には、障害物がありません。たこ揚げや羽根突きも大丈夫、芝すべりには、ちょうどいい富士見の丘があります。かくれんぼにもいい隠れ場所がたくさんありますよ。

夏に昆虫採集やメダカを取りにきた子どもたち、冬の公園で思い切り遊ぶのはいかがですか。お父さんお母さん昔を思い出して思い切り駆け回って、透き通った空気を胸いっぱい吸い込んでみてはいかがでしょうか。

## 【問】

古河総合公園管理事務所

☎47-1129

FAX48-5685

✉sougou-park@koga-kousya.or.jp

HP<http://www.koga-kousya.or.jp/koga-park/index.html>

## 表紙写真



古河市内をバックに日の出と大空へ舞い上がろうとする熱気球(協力：古河バルーンクラブ)を撮影しました。

皆さまにとって日が昇るような希望に満ち溢れた一年になりますようお願いしております。そして、東日本大震災により被災された方々にとっても一日でも早く復興できますよう祈念いたします。

健康で幸多い一年になりますように……

【題字は友墨会・小室真仙<sup>こむろしんせん</sup>さん(鴻巣)の作品です。】

## 寄付



石川雄子さん(東京都千代田区)より篆刻美術館に保孝三・刻印4顆、古川悟・刻印の寄付。

船橋正憲さん(諸川)より、古河歴史博物館に板戸(旧古河城伝来)一組の寄付。

古河大使・渡辺徹さんより自転車ワイヤーロック260個の寄付。

## 古河市データ

### 人口



(12月1日現在) 住民基本台帳から  
総人口 144,315人 (-13)  
男………… 72,383人 (-14)  
女………… 71,932人 (+1)  
世帯数… 55,124世帯(+63)  
( ) 内は前月比

## わが家のアイドル



きずな ゆい  
中村絆くん・結ちゃん

(4歳7カ月・2歳10カ月・中央町)

絆くんはお絵描きや何かを作ることが上手です。いつも驚くような作品を作り、得意げに見せてくれます。結ちゃんはパズルやビーズなどの細やかな遊びが大好き。お片付けまでしてくれるしっかり者です。そんな二人がそろると、けんかもするけど仲良しこよし。泣いているとかばって助けます。元気いっぱい二人から、パパとママはパワーをもらっているよ！

## 今月の料理

## 貝柱とチンゲン菜のクリーム煮



- ①チンゲン菜120gは根元を切り落とし、4~5cmの長さに切り、茎と葉に分けておく。
- ②ホタテの貝柱80gは厚みを2~3等分にする。
- ③長ネギ1/2本とショウガ1かけはみじん切りにする。
- ④フライパンにごま油小さじ1強と、長ネギとショウガを入れて弱火で炒め、香りが出たらチンゲン菜の茎、ホタテ、チンゲン菜の葉の順に入れ、強火で炒める。
- ⑤④に水50ccとコンソメ1個・酒小さじ1・牛乳50ccを加えてひと煮立ちさせ、こしょう少々で味を調える。水溶き片栗粉(片栗粉小さじ2/3と水大さじ1強)でとろみをつける。(4人分)

〈1人分〉

エネルギー=67kcal  
タンパク質=4.4g  
脂質=3.0g  
カルシウム=49mg  
食塩相当量=0.5g



## 日々奮闘!



## 子育てアドバイス

### 冬のスキンケア

◆**基本のスキンケア**  
◆毎日お風呂に入り、体を清潔に保ちましょう  
↓ポイント  
↓ポイントは皮膚をこすらないで洗うこと、よく石けん成分を洗い流すこと、お風呂上がりはバスタオルでやさしく水分を拭

- 乳幼児のお肌の特徴**
  - ・肌が薄い
  - ・汗の量が多い
  - ・皮脂の分泌が少ない
  - ・皮膚のバリア機能や免疫力が未熟
- 冬のお肌の状態**
  - ・乾燥で肌の保湿力が低下し、肌トラブルが起こりやすい
  - ・暖房や着せすぎで、冬でもあせもがでやすい

寒くなると、空気が乾燥してくると、大人も肌のかさかさが気になりますね。それは、赤ちゃんや子どもも同じです。冬は特にスキンケアに気を付けたい季節です。ポイントは「清潔&保湿」です。



くことです。また、汚れや汗は、肌の刺激になるので、おむつ替えや食事の後などは、きれいに拭いてあげましょう。

◆**保湿剤を使いましょう**  
↓入浴後は、すばやく保湿しましょう。肌をきれいにした後に潤すことが基本です。

◆**肌を刺激する素材の肌着や洋服はさげましょう**  
↓綿100%のものが良いでしょう。

◆**お部屋の暖めすぎ、空気の乾燥に注意しましょう**  
↓エアコンや加湿器を上手に利用し(室温20℃くらい)、湿度50~60%衣類の着せすぎにも気を付けましょう。

健康推進課

平成24年1月1日発行

●発行所/〒306-0291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所  
●編集/広報室 ●ホームページ/ <http://www.city.ibaraki.kogae.jp/>

☎0280(92) 3111